

長井高校におけるICTを活用した授業展開



日時：令和4年6月17日（金）14：25～15：15

場所：33HR教室

対象：3年生 生徒29名

授業者：狩野峰彦 教諭

1 長井高等学校の特徴 学級数：一般コース12学級、探究コース3学級、生徒数506名、教員数53名
校訓『萬物備乎我』の建学の精神のもと、自立的・積極的な生活態度の育成と個性の伸長をはかる教育を行い、令和2年度に創立100周年を迎えた。地域の期待に応え、置賜地区、ひいては県内外様々な分野で活躍する人材の育成を行ってきた。平成30年度より探究コースを設置し、生徒が自ら学び主体的に課題を解決する能力を育成するための活動に力を入れている。

令和3年度にChromebook（教員用）15台配備。教室に大型提示装置、Wi-Fi設置。

令和4年度より、生徒1人1台端末（Chromebook）を全生徒に配付。

2 研究主題

1人1台端末を活用し生徒の主体性を引き出す。（ICTを利用した思考の共有と授業の効率化）

3 単元名・目標

単元名：小説の構造理解 使用教材：梶井基次郎『檸檬』、『笈の話』

- (1) 象徴・比喩について理解し小説の構造を把握できる。 (知識及び技能)
- (2) 『檸檬』で学んだ象徴や比喩の知識を、『笈の話』においても活用し、『檸檬』における作者の心情および象徴や比喩についての理解を深めることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 小説教材の魅力について、修辞法や構造などから多角的に捉えようとする態度を養うとともに、その魅力について意見を共有し多様な考えを参考に自らの意見を磨こうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

4 単元計画（全8時間 本時3時間目）

① 梶井基次郎『檸檬』大段落1読解・象徴と語り手について学ぶ（2時間）

ICT:一人一台タブレット（Chromebook） 大型提示装置（プロジェクター） Google スプレッドシート
Google スライド Google Classroom

② 梶井基次郎『笈の話』読解・象徴を理解し、テキスト同士の共通点を探す【本時】（1時間）

ICT:一人一台タブレット（Chromebook） 大型提示装置（プロジェクター） Google スプレッドシート
Google スライド Google Classroom Google Jamboard Google form

③ 梶井基次郎『檸檬』大段落2・3読解（5時間）

ICT:一人一台タブレット（Chromebook） Google Classroom Google スプレッドシート Google スライド
Google Jamboard

5 主に活用した機器・コンテンツ

- ・Chromebook
- ・大型提示装置（プロジェクター）
- ・Google Classroom
- ・Google スプレッドシート
- ・Google フォーム
- ・Google スライド
- ・Google Jamboard

6 本時の指導

(1) 本時の目標

『笈の話』と『檸檬』の表現との共通点を発見し、『檸檬』における作者の心情及び象徴や比喻についての理解を深めることができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 指導過程

時間※ ¹	●主な学習活動	○ICT活用ポイント、留意点	使用機器 コンテンツ	情報活用能力※ ²
導入 5分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の確認 象徴・比喻について確認する。 ●課題の提示 象徴・比喻を手掛かりに『笈の話』と『檸檬』の共通点を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大型提示装置でテキストの提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型提示装置 ・スライド 	A 2 ① d ステップ 4 比較や分類・関係付けなどの情報の整理
展開 1 20分 協働 A 1 B 1 C 2	<ul style="list-style-type: none"> ●Jamboard を利用し、『笈の話』の静かな径で筆者が注目しているものを挙げる。 ●グループごとに、どのような語句が挙げたか他グループのボードを見て確認する。 ●対応するものを、『檸檬』の大段落 1 から探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スライドを利用し、語彙の意味などを全体で確認する。 ○Jamboard でのグループ活動により、発言の苦手な生徒でも主体的に活動できる環境にする。 ○『笈の話』で挙げられた語句を全体で共有し、足りないものがあれば自グループのボードに書き足す。 Jamboard で行うことで情報共有の効率化及び情報整理を図る。 ○先ほどまでの Jamboard を整理し二分割し、テキスト同士の対応を可視化できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型提示装置 ・1 人一台タブレット ・Classroom ・Jamboard ・フォーム 	A 2 ① c ステップ 1 情報の共通と相違の関係性に注目する。 B 1 ② ステップ 3 情報の傾向と変化を捉え、類似点や規則性を見つけたとの転用や応用を意識しながら問題に対する解決策を考察する。 C 1 ① ステップ 5 事象を情報との結びつきの視点からとらえようとする。
展開 2 20分 協働 個別 B 1 C 1	<ul style="list-style-type: none"> ●筆者が見ている個々の事物がどのような言葉で抽象化されているか考えテキストから抜き出す。 ●フォームで選択式問題を解く。 ●フォームの結果を確認し、解説を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○フォームの回答は個人で行う。結果をその場で共有して理解がどれほど進んだか確認する。 		
まとめ 5分 一斉 B 1	<ul style="list-style-type: none"> ●スプレッドシートに今日の感想を記入 		<ul style="list-style-type: none"> ・スプレッドシート 	C 1 ② c ステップ 4 情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善しようとする。

※1 本欄におけるアルファベットおよび数字で示した記号は、文部科学省「学びのイノベーション事業報告書 学習場面に応じた ICT 活用事例」に基づく表記を示す。

※2 本欄におけるアルファベットおよび数字で示した記号は、文部科学省「【情報活用能力の体系表例 (IE-School における指導計画を基にステップ別に整理したもの)】(令和元年度版)全体版」に基づく表記を示す。

7 県教育センター所感

- (1) ICTの活用場面が効果的に設定されている授業でした。グループワークをする際に Jamboard を活用することで、自分の考えを気軽に書くことができたり、自分で気が付かなかった部分に気づいたりできたようで、生徒が生き生きと授業を受けているのが印象的でした。また、Jamboard を使うことで、発言が苦手な生徒でも自分の考えを積極的に表現できていたと思います。
- (2) フォームで作成した選択式問題を解く場面では、解答結果がリアルタイムでわかるので、教員が生徒の理解度を瞬時に把握することができ、非常に効果的です。解答した後で解答内容と、その理由を共有する活動があると生徒がより主体的に学習に向かうことができるのではないのでしょうか。

ICT活用の様子

キーワードを Jamboard に抜き出す



他の班の Jamboard を見て足りないものを確認



班で意見交換



フォームの小テストで理解度をチェック

